



神楽島

長崎市立式見小学校
校長 中尾 善蔵



素敵な本の紹介がありました

昨日、人権集会を行いました。そこで、運営委員会のみなさんが、素敵な読み聞かせを行ってくれました。

谷川俊太郎さんの「ともだち」という絵本でした。15年くらい前、私も、まだ教諭時代だったときに出会った絵本で、その頃のことがとても懐かしく思い出されました。

すべてひらがなで書かれている絵本なので、対象は幼児から小学校低学年向きの絵本のようなのです。しかし、大人の私もちゃんとできているのか？と身につまされる内容で、我が身を振り返りました。

構成は、①ともだちって、②ともだちなら、③ひとりでは、④どんなきもちかな、⑤けんか、⑥ともだちはともだち、⑦あったことがなくても、⑧おわりに、という構成です。

難しい言葉は一切出てきません。大人の私でも、ドキッとした⑤けんかの「連」（段落）のみ掲載します。

じぶんの いいたいことは はっきり いおう。
あいての いうことは よくきこう。

わるくちは いっていい、でも かげぐちを
いうのは よくないな。

けんかは したっていい、でも ひとりを たく
さんで いじめるのは ひきょうだ。

おかあさんや おとうさんや せんせいに いい
つけるのは するいんじゃないかな。

なかなかおりするには けんかするのと おなじく
らいの ゆうきが いる。だけど わるかったと
おもったら 「ごめんね。」と あやまろう。

式見っ子人権宣言

- 1 みんなが仲良しの学校にします。
- 2 みんなが思いやりを大切にする学校にします。
- 3 みんなの笑顔があふれる学校にします。

言葉の力と言葉の深み

校長になって、いろいろな場面で挨拶をする機会が増えました。自分の反省でもありますが、「言葉の力」をつけたいなという反省することばかりです。

しかし、言葉の力を身につける前提として、人間性を磨かないといけないことも考えています。先人である、松下幸之助さんや野村克也さん、諸先輩等々、尊敬する人物が発する言葉には「その力や深み」を感じ、感動します。

しかし、うわべだけの言葉や、きれいな言葉には心が動かないこともあります。やはり、言葉の背景である人間力に、感銘を受けないからでしょう。

昨日、W杯サッカー日本代表キャプテンの吉田麻也選手のインタビューに、たいへん感動しました。

「毎日、この壁を破るために4年間、いろんなものを取り入れてチャレンジしてやってきたつもりなんですけど、結果が最後に出なくて悔しいですね…」

記者：ドイツを破り、スペインを破って、日本のサッカーは変わっていると思いますが、いかがですか？

「多くの子どもたちがこの試合を見て、サッカーに夢を馳せて、ときめいて、またサッカー選手になりたいと思う子たちが増えて、その子たちがいずれW杯に出て、この壁を破ってくれることを期待していますし、自分も日本の成長の一端を担っていたのなら嬉しいです。これからもそれは続いていくと思うので、どんな形であれ貢献したいと思います。」

サッカー日本代表やそのスタッフは、新しい景色を見ることはできませんでした。しかし、世界の多くの人たちに感動を与えてくれましたし、多くの子ども達に「夢や憧れ」を抱かせてくれました。その背景には、裏付けされた今までの努力や頑張りが感じられたからだと思います。